

PI (パブリックインボルブメント) の結果について

ウェブ

性別	年齢	住所	意見
男性	20歳代	釧路市	町村部では大都市圏から定年後の住みかにと、移住の促進をしているが釧路は??一方で高齢者比率が全道平均より高いとなると、移住の薦めは高齢者層の増加にもつながり、一概に言えないところか。一方人口減の要因は一次産業の衰退もあるが、企業の撤退も非常に大きいと感じている(札幌や道東圏は帯広に集約等)。一つの出先が撤退することで、その家族や関連する企業までが縮小や撤退になり、その"効果"も出ていると思う。企業誘致や流失に歯止めをかける等を図る点はおろそかになっていないか?(釧白工業団地も空きが目立っているし)
男性	20歳代	釧路市	はじめまして、私は23歳の会社員です。今回、街のために意見を書かせていただきます。釧路市の再生に必要なのは駅前的大幅な改革だと思います。私はみずほ銀行を証券取引に利用するのですがそのための駐車場が有料であるため、売買の度に何度もお金を取られるのでは証券取引の意味が無くなります。また10代20代の若者を見かけることはほとんどありません。街の活性化には若者の購買意欲をそるような、ショッピングや証券取引、新興商店の新規参入などをしやすい環境作りを促すのが大事だと思います。また、旭川市ではアニメや漫画といった所謂「オタク文化」を産業に加えて地域の活性化を狙う動きがあります。三年前、私は旭川大学の三年生だったのですがその地域研究所が主催するシンポジウムにおいて「釧路のオタク代表(笑)」として講師の方々に質問したりそのシンポジウムの感想をレポートに書いたこともあります。もし、お時間があれば旭川大学の竹中教授を訪ねてみてください。
男性	30歳代	釧路市	何はともあれ「新しい血の導入」こそが新しい釧路市を創るのに必要なことではないでしょうか?
男性	40歳代	その他	地域性をもっと打ち出さないと、地域として生き残れない時代になる。
男性	30歳代	釧路市	少子高齢化で、地方の人口減少は加速する。道内では札幌への一極集中が進み、釧路といえども一地方都市して埋没してしまうだろう。酪農や漁業も重要だが、新しい産業を造りだしていかないことには、その他の地域と何らかわらなくなる。
男性	60歳代	浜中町	地方には地方の良さがある。都市機能も大切だが、自然など地方が持っている良さを都市にPRしていくことが必要である。
男性	50歳代	その他	釧路といえば、霧と湿原。知床をうまく活用できないか?
男性	30歳代	釧路町	釧根と十勝を比べると、ブランド力では十勝の方が上。違いはほとんどないはず。東京などへの情報発信力が弱いのではないか。
女性	20歳代	その他	丸井も撤退し、市街地がさびしい。若者は札幌を向いている。
男性	20歳代	その他	悪あがき。

郵送

性別	年代	住所	意見
男性	40歳代	弟子屈町	環境保全と地域の活性化は密接な関係にある。自然環境や湿原を求めて移住者が増加すると思われるし、そのニーズに添った施策が求められる。食糧基地としての釧根の位置付け・役割を明確にし、示すべきだ。 がんばれ!
男性	20歳代	釧路市	IT化により、都市と地方の格差はなくなる。釧根でも都市部と同じようなビジネスプランが展開できるはずである。農業に依存しない地域づくりを。
男性	30歳代	釧路市	水産業などの高付加価値化。生産基地だけでは生き残れない。 観光は重要だと思うが、住民自身はあまり観光に関心がないのが実態だ。試行錯誤する前に、こういった動機付けが必要ではないか?
男性	20歳代	標津町	観光客の増加を目指していく中で魅力ある道路、快適な道路の整備をしてほしい。
男性	30歳代	標津町	
男性	30歳代	釧路市	人口減少化にあっても、この地域に住み続ける為には、人々の安全・安心な暮らしを守り、大消費地から遠隔で競争力に劣る地元産業の振興に資するようなモビリティの確保が重要となると思われるので、高規格道路の整備についてもっと記載するべき。

区分	地域の現状及び課題について	地域の目標とすべき「将来像」について	今後担うべき地域の役割について	食や観光産業など今後の産業振興について	今後の生活環境などについて	上記「将来像」を実現させるために必要な取り組みについて(インフラ整備など)	その他地域の今後に関して
釧路市	伊東良孝 釧路・根室圏域の面積は本州の県並み規模を有し、その面積は山口県と鳥取県を合わせた面積にほぼ等しいが、圏域人口は363千人(平成12年)と中核市1市分規模の人口が地域内に散在しており、広域分散型の地域構造を呈している。 今後、本圏域が急速な人口減少と高齢化に直面するなかで、これまでの農業、水産業など一次産業により担ってきた国内における食料供給機能と、自然資源を活用した産業活動を今後も維持発展させながら、広大な国土管理をどのように行っていくかが大きな課題である。 また、知床世界自然遺産や3つの国立公園に代表される優れた自然環境を賢明な利用を図りながら、永続的に保全することが地域に課せられた課題でもある。	釧路・根室地域の「将来像」として掲げられている「安全・安心で質の高い食産業の構築」及び「自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興」は釧路・根室地域において特に重要な取り組みであると考えます。 本市においては、基幹産業である漁業、酪農を活かした安全・安心で良質な「食料」の提供、釧路湿原や阿寒といった国立公園に代表される豊かな自然環境を活かした「観光」の振興が今後ますます重要と考えており、本市の将来像とも一致するものである。 特に、本市は重要港湾釧路港の国際物流拠点機能により、オホーツク、十勝圏域を含めた東北道圏域を含めたゲートウェイ機能を担うとともに、海外チャーター便就航による国際観光の振興と併せて「東アジアなどとの関係の強化」を標榜することは重要である。	釧路・根室地域は、水産業、酪農をはじめとした第1次産業が盛んな地域であり、また、知床世界自然遺産と3つの国立公園を擁する大変自然に恵まれた地域である。「将来像」にもあるとおり、これらの資源を活かし、国内有数の食料供給基地として安全・安心で質の高い「食」の提供と、世界に誇る素晴らしい自然環境を活用した観光産業の展開による癒し空間の提供が本地域としての役割であり、強みであると考えます。また、これらの魅力を活かした長期滞在等の受け入れ地としても本地域は有力であると考えます。	「食」と「観光」は本市における重点事項であり、「食」については、基幹産業である水産業、酪農を中心とした第一次産業の基盤強化と他産業との新たな連携の確立が、また、「観光」については、全国ブランドとして確立しているマリモ、タンチョウや、釧路湿原、阿寒の2つの国立公園といった魅力ある観光資源を活用した観光産業の振興が、本市の産業振興における重要な施策となっている。食をテーマにした観光の推進といった取り組みをはじめとして、食と観光を軸とした産業振興策を図っていくことが、本市の魅力を最大限に活かすことでもあるので、今後も引き続き力を入れていくべき分野であると考えます。本市では、先頃、阿寒湖畔において、日中韓観光大臣会合が開催され、国外にも広くその名が発信されたところであるが、知床世界自然遺産も含め、これら知名度の高い観光地が連携した取り組みを行っていくことも、今後、重要なことであると考えます。	住民が今後も安心して生活していくためには、地震や津波、火山噴火といった災害に強い地域づくりを行っていくことが重要である。耐震岸壁の整備や津波スクリーンの設置等といった地震や津波に対する防災、減災対策は、地震の多い本市にとって必要不可欠であると考えます。また、火山噴火に対する取り組みとしては、雌阿寒岳に対するより詳細な観測体制が必要である。	東アジア地域との関係性を強化する上で外貨コンテナ定期航路の維持、拡大は不可欠であり、国際標準貨物取扱のための機能整備をはじめ、重要港湾釧路港の整備は今後も重要である。また釧路港後背地であるオホーツク、十勝などの中心都市とを結び高規格幹線道路網の早期整備による物流機能の向上により圏域間の効率的な物資輸送の実現が必要である。 国際チャーター便の就航が堅調な釧路空港においては、CIQ体制の充実と空港機能の利便性確保が不可欠であり、これら整備が東北道における広域観光の伸展性を高め、国内外の観光客の誘客に寄与するものと考えます。 また、大規模な地震や津波の発生の危険性が指摘される当地域の防災対策に係る施設の整備が必要であると考えます。	本市においては、中心市街地の空洞化対策が懸案事項となっている。また、それと関連し釧路駅の鉄道高架について、その是非を問う議論を市民も含めてこれから行う予定であるが、これら釧路駅から中心市街地にかけては、釧路・根室地域全体としてみても観光の玄関口であり、また、釧路の「顔」にあたる部分でもあるため、観光振興のうえでも中心市街地の活性化策は重要であると考えている。
釧路町	菅原澄 景気回復の状況において、北海道が全国的に見ても遅れており、とりわけ釧路、根室地域の経済の冷え込みは大きいものがある。このため、地域人口の推移も大幅な減少傾向が示されており、地域活力の現象が懸念されている。 しかしながら、農業、漁業の第1次産業は釧路、根室地域の大切な基幹産業であり、農業集落、漁業集落の維持は、地域活性化には必要不可欠であり、我が国の食料自給率の向上からもこうした地域の生活環境、生活基盤の整備は必要である。	第1次産業の生産基盤の整備による農業、漁業を職業として選択できる環境づくりが必要であると共に食を提供するものとしての、安全・安心で質の高い食を供給する取り組みが求められる。 また3つの国立公園を有する自然環境をこうした地場産業と有機的に結びつける取り組みがより一層重要となってくる。	人口減少下にあってはコンパクトなまちづくりの理念も必要かと思われるが、優良な農地、豊かな漁場に息づいてきた農村漁村集落は地域の根幹を成すものであり、そうした地域の生活基盤整備は必要と考えます。 また医療、福祉等の住民サービスは、地域間の格差を縮め等しく享受できることが理想であるが、現状の中でどのようなサービスを提供できるか、広域的な取り組みも必要と考えます。	観光と食との連携は、釧路、根室地域の産業振興には重要であることは以前からの指摘、課題であり、それぞれの分野で地域ブランドの発信が見られるが、今後も取り組んでいく必要はあると思われる。 また、地場産品の地産地消が進められており、まずはその産地において地域ブランドが認知され、親しまれていくことが大切と考えます。	高齢化社会の急激な進行においては、生活圏を拡大することは困難な面もあり、地域の均衡の取れた生活環境整備は必要と考えます。 高齢者が安心して暮らすことのできる環境づくりにおいては、医療、福祉サービスの提供と共に、地域ぐるみで見守っていくことのできる地域構造が求められてくる。	生活環境の向上、生産体制の整備には、交通網や住環境のインフラ整備は必要と考え、産業振興による雇用機会の創出など、地域が持続していくことのできる取り組みを推進することが求められる。	
厚岸町	若狭靖 地域の現状把握においては、人口や産業面での動向、取り巻く自然環境については、記述のとおりだと思います。 しかし、地域の課題として懸念される「担い手」不足に対して、新たな「担い手」を他地域から取り込むなどの表現がされているが、現在、高卒者や離職者が地元で働きたくても働き場がない現状を考えると、地域の少子化対策にもつながると思うが、子供たちが大人になっても安心して働ける場所が強く求められていると思われる。	安全・安心で質の高い食産業の構築では、特に地元で荷揚げされる水産物については、漁獲段階さらには流通に対しても鮮度保持に配慮されているが、地元で大消費地のニーズに合った食品づくりや付加価値を高めることが必要です。 また、雇用対策にあっては、企業の生産面だけではなく、安定した雇用の場づくりの視点も必要ではないでしょうか。	現在、北海道から市町村合併推進構想(案)も示されておりますが、地域によって培われてきたそれぞれの文化や産業があり、地元の特性を活用した地域づくりが進められております。 地域特性を活かした差別化と、ものによっては地域の広域な連携も必要かと思われる。	自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興に記載されているとおりと考えます。 しかし、具体的な取り組みの事項では、文言としては理解できるものの具体的な対応策を例示などで示さなければ、イメージが解らないのではないのでしょうか。	国が進める構造改革は、地域の過疎化と疲弊化を進め、社会的にも住民負担が大きくなり、さらには都会と地方の生活格差が広がって来ており不満は多い。 今後は一地域だけではなく、広域な連携で地域役割を分担しながら生活環境の整備を進める必要があると思われる。	地域においては、生活道路をはじめ産業道路や観光に活かすために必要な道路整備は今もなお不十分です。 しかし、国が示す事業の対費用効果等にあっては、人口密集地域での経済効果が対象になるような補助事業採択基準であり、地方の道路整備は立ち遅れた現状にあります。 地方のインフラ整備では、別な基準も必要ではないかと思えます。	

区分	地域の現状及び課題について	地域の目標とすべき「将来像」について	今後担うべき地域の役割について	食や観光産業など今後の産業振興について	今後の生活環境などについて	上記「将来像」を実現させるために必要な取り組みについて(インフラ整備など)	その他地域の今後に関して	
根室市	市長 藤原弘			冊子P12、13 3.住みたくなる地域・生活環境の充実・北方領土との交流拡大と拠点機能の強化 (隣接地域の現状): 北方領土問題の節目といわれた昨年11月の日口首脳会談に、根室地域住民は大きな期待を抱いておりましたが、残念な結果となり、地域には落胆と失望が広がりました。この結果を受け、今後の北方領土問題の解決は、返還に向けたより戦略的な環境づくりと、内政問題として元居住者や北方領土隣接地域に対する適正な戦後処理を図る「未来に希望の持てる取り組み」に再構築する必要があると考え、本年2月、隣接地域として提言書を取りまとめました。 こうした北方領土隣接地域の現状をふまえ、北方領土との交流拡大の中に「今後の経済交流を見据えた多様な交流の展開」について、文章として盛り込んでいただきたい。また、「北方領土隣接地域の振興」「北方領土問題の解決に向けた取り組み再構築の円滑な推進」という観点からの文章も是非盛り込んでいただきたい。(下記参考) 「北方領土隣接地域の振興」-北方領土問題が長年未解決であるため、北方領土に隣接する根室管内1市4町が受けている社会的、経済的影響は想像以上に大きいものがある。したがって、「北方領土問題等の解決の促進のための特別措置に関する法律」(昭和57年法律第85号)に基づき、安定振興対策を優先的に推進する。 「北方領土問題の解決に向けた取り組み再構築の円滑な推進」-国において再構築に向けた基本戦略調査を実施するとともに、それに基づく再構築のためのアクションプログラムの策定並びに関係諸対策の確立を図る。 北方領土問題未解決の長期化から、地域疲弊は限界に達しており、隣接地域住民の生活環境の充実を図る上からも、上記内容について「目指す将来像」に盛り込んでいただきたく、よろしくごお願い申し上げます。				冊子P17右上の「資料」の表題は「地域を支える基盤づくり」になるのではないか。
中標津町	町長 西澤雄一							
鶴居村	村長 日野浦正志	少子高齢化、人口減少に伴う酪農業の担い手不足の懸念を法人化による経営の大規模化や次代を担う意欲ある酪農後継者組織の自主的活動への支援により解消に努めております。また、農協や北海道農業担い手育成センターとの連携を強化しながら酪農研修生や新規就農者の確保にも努めております。 ・現在、本村には、「良質な牛乳」という強みを活かした特産品がないことから、特産品の開発が期待されているところであり、観光ニーズとして自然観察・体験型観光が求められており、本村の豊かな自然を観光資源として活用した取り組みが行われておりますが、より質の高い観光サービスの提供が求められております。	急速な少子高齢化や人口減少がこのまま進むと、各地域がこれまでの形態を維持していくことは難しいことから、各地域の役割分担や広域連携等を効果的、効率的に行い、様々な機能を補完し合うような地域構造の構築が必要である。	地域に埋もれている「資源」を発掘し、食や観光産業に結びつけ、地域を活性化させていくことが必要である。また、現存の食や観光産業についても、常に利用者の安全や満足を高めていくことが必要である。これが、リピーターを増加させることにつながるため、事業者の安全管理体制の整備やサービス内容の向上など、利用者の立場にたったより質の高いサービスの提供が求められる。	今日、生活全般の豊かさを求める意識が強まってきていることから安全、便利、衛生的で快適な生活が送れる生活環境の整備が求められております。地域住民が安全に暮らせるために、災害に強い地域づくりが必要であることから、災害時の地域連携の強化が必要であります。また、釧根地域の世界に誇れる豊かな自然は、地域の大切な財産であり、産業に活用するだけでなく、地域全体で保全していくことも重要である。	全国的に「食」の安全ニーズが高まる中、本村の地域特性を活用した「良質な牛乳」を使用した特産品を開発するため、今年度、乳製品加工施設を建設し、販路拡大に向けても取り組んでおります。また、本村では、本村の特性を活かし、地域の将来像を見据え自主的な発展が期待される地域活性化事業などを対象に、財政的な支援を行っております。(H17~)今後のインフラ整備については、地域との対話に努め、事業や行政に関する意見に幅広く耳を傾け、ともに考え、施策に反映させることが重要であり、限られた財源でより効果的・効率的な整備が必要であります。		

区分	地域の現状及び課題について	地域の目標とすべき「将来像」について	今後担うべき地域の役割について	食や観光産業など今後の産業振興について	今後の生活環境などについて	上記「将来像」を実現させるために必要な取り組みについて(インフラ整備など)	その他地域の今後に関して
弟子屈町	徳永哲雄 人口については昨年実施の国勢調査で初めて減少に転ずるなど全国的な傾向であるが、これは少子化に起因するものであり、当地域のようないわゆる過疎地域においては、少子化のほかに他地域への人口流出が大きな問題である。北海道を除く国内景気は好調を維持しているが、公共事業への依存度が高い北海道は三位一体の改革による公共事業の大幅な減少により、特に地方は働く場を失い地域を去っていくという状況である。また、自然環境については世界に誇る資源がそろっているが、本町の摩周湖でも木々の立ち枯れやゴミの散乱が目立つなど環境の悪化が懸念されている。	当地域は冊子記載のとおり恵まれた自然環境から受ける恩恵は計り知れないものがある。持続的な発展を目指すために、5つの方針の内特に「自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興」を推進することにより、ひいては他の方針にもつながっていくのではないかと。	北海道は東アジアからの観光客が増加傾向にあったが、先般当地域において「日中韓観光大臣会合」が開催され、より一層東アジアとの結びつきが強くなったことから、これらの観光交流における受け皿としての担うべき役割は大きい。また、食の面では現状でもその豊富な水産資源や農産物から食糧基地として果たしている役割は大きい。食の安全性が重要視されている昨今においては、その役割を果たすべく今まで以上の取り組みが望まれる。	農業では土づくり、水産業では海に注ぐ河川流域における水源涵養林の育成など、基礎的な環境の整備及び保全を図ることにより、安心・安全で質の高い食産業の基盤が構築されるのではないかと。観光産業では持続的な発展を目指すため自然環境の保全が重要であることから、それらの取り組みを推進し自然環境との共生を図っていくべき。	自然環境については多くの観光客を呼び込むほどの資源を有しており、これは地域住民にとっても生活環境のポイントとしては高いものがある。今後はこれらを保全していくことはもとより、火山や地震などに対する防災対策や医療・福祉対策を充実していくことが必要と考える。	物流を含めた交通アクセスの改善を図るため高速道路・高規格道路の整備や高度化する情報化社会に対応するためブロードバンド通信網の整備。	
白糖町	-	-	-	-	-	-	-
標茶町	町長 今西 猛 第1次産業産業である酪農業と漁業が地域の基幹とされる産業であるが、特に酪農業従事者と農家戸数の減少が続く、人口減少にそのままつながっているが、農家戸数の減少を大型化がカバーし、生乳生産量は横ばいの状況である。後継者問題と先行き感が離農の主因であり、あらたな経営継承システムの確立が課題である。 多くの国立公園と道立公園を抱える自然豊かな地域であるが、それらを結ぶ交通手段(システム)が希薄である。	安全で安心な日本の食料基地としての位置づけが変わることはない。牛乳に限って言えば、帯広近郊の十勝ブランドがあるが、釧路、根室地域の根釧ブランドはイメージが広すぎてインパクトが弱い。もう少し小地域の冠が必要。 釧路、根室地域の内陸は日本有数の酪農地帯である。将来的にはフランスの小さなワイナリーのような各小地域で生産された牛乳やチーズを食べることができる構造とその持続のための消費拡大策の確立。 実際に住んでいる人が住み続けたいと感じなければ移住もありえない。癒しとしての自然環境の保全と日常生活上の利便性の確保。	日本の中の北海道、北海道の中の道東、道東の中の釧根地域と順次絞っていくと、地域として特色と出すのはかなり難しい。釧根地域の面積は9,500平方メートル程度で山口県と鳥取県を合わせたほどの面積になる。産業も水産と酪農の2大産業であり、各市町村によっても目指す方向性と役割が違う。釧路、根室地域では広義な役割として安全・安心な日本の食料基地となる。 自然豊かな地域であるということは緑が多いということであり、光合成も活発に行われている。地球温暖化対策が叫ばれているが、有効な手段がなく、吸収源が注目されている。地域の内陸などは森林も多く地球温暖化対策としての役割を果たし、今後もその役割の必要性を感じるが、これらが財源に結びついていない。一定程度の開発が終了した都市部からの財源移入が必要。	販路拡大とは相反するものであるが、そこへ行かなければ食べられないという希少性も必要ではないか。それが目的の観光も成り立つと思うが、宿泊観光と産業の連携が必要である。イカやマグロの刺身ではなく、牛乳の加工品やサンマの刺身を提供できる地元産業の融和が必要。	河川環境や海の環境を守るためにも、また快適性の上でも下水道整備が必須であるが、散在している農家の排水処理が今後の課題。 第2次医療実施病院への到達時間の短縮が過疎地定住の安心感につながる。	主たる国道の高規格化などにより、移動時間の短縮を図る。また交通安全上問題の無い区間の制限速度を緩和しその道路への誘導を図る。 道路景観をアップさせるために、花や樹木を植え、道路関係設備のもの、例えば転落防止柵を木質系に変更する。道路上の小景勝地に駐車帯を設置する。 観光目的車両などの対策として自然と融和した案内板の設置。 市街地を流れる川を治水問題がなければ豊かな自然を認識できる昔風の川風景にする。	-
標津町	町長 金澤 瑛 品質を重視した安全・安心食料供給基地となる生産の町：地域ハサップを立ち上げて安全・安心、本物ブランドとしての地位を得ている水産業(鮭を中心とした漁業と加工業)と肥料、土、草の安全とコスト削減を目指した循環酪農は、国際競争に立ち向かいながら、比較的安定した経営を行ってきているか、今後はこれらに加えて、地域内におけるこれら原料を活かしたもののづくり産業の振興が課題。 1次産業の省力化やコスト削減及び少子化による人口減：多用な要因によって人口がこの40年間で25%減少している。特に若年層の雇用の受皿が極端に少ない状況が大きな課題。	現状をこれまで以上に進めた安全・安心、本物の食料供給基地：現状で述べたが、今後についても、これまでの取り組みを推進すると共に、地域の自然環境はもとより、関わる人の意識も含めて、町を挙げた質なる強化による食産業の確立ときめ細かいものづくり事業の推進。 小さくともキラリと光るまちづくり：質の高い食産業と連携した体験型観光(エコツーリズム事業)の一層の振興と、当町が持つ海、山、川、平原がそろった資源の特徴を最大限活用し、交流、健康、保養をテーマにした観光産業の活発化。	都市と地方は不利一体の関係であり、この意味からも地方は都市住民に食料はもとよりCO2削減のための森林の役割と共に、自然保全によって保たれた健康、癒しの場や憩い、レクリエーションの場としてのフィールドとして提供する役割を持つ。 これまでの定住者、これまで以上に心豊かに幸せに暮らし続ける地域としての取り組みを進めると共に、。団塊の世代などを中心とした国内移住者への受け皿としての地。	のとおり。	中心市街地以外の集落などについても、都市と格差のない生活インフラの整備(道路、水道、下水道、ごみ収集等)を進める必要がある。当町に残されたのは生活廃水処理施設(下水道、合併浄化槽)。 弱者はもとより、一般家庭にあって除排雪システムが解決された豊かな冬の暮らし。	漁港の環境衛生管理施設(屋根つき埠頭、清浄海水供給、排水処理、港内の舗装化等)の整備促進。 多面的な機能を有する豊かな森づくり。 自然環境、産業、生態系等と協調、連携した川づくり。 中標津空港と大都市圏との路線強化。 釧路中標津線(釧路 標津間)の高規格道路の早期完成。	本州地域と比べ著しい景気低迷状態である。このため、例えば環境型の公共事業を創出して1日も早くカンフル剤を注入する必要がある。

区分	地域の現状及び課題について	地域の目標とすべき「将来像」について	今後担うべき地域の役割について	食や観光産業など今後の産業振興について	今後の生活環境などについて	上記「将来像」を実現させるために必要な取り組みについて(インフラ整備など)	その他地域の今後に関して
浜中町	町長 長谷川 徳幸 第1次産業の農業・水産業を基幹に成り立つ本町は豊かな自然環境を背景に生産基地として安心・安全な食の提供に向けて取り組みを続けているが、就業者の高齢化や後継者対策、消費の低迷と貿易自由化の国際的な潮流の中で厳しい経営環境に立たされている。	まちづくりの将来像「輝ける恵みの大地と海、はまなか」～未来につながる豊かな環境～ 輝けるとは：町の輝き、地域の輝き、人の輝きを意味し、本格的な少子高齢化を迎え、町民の誰もが健康で生き生き輝き、安心して暮らし、創造性と豊かな人間性を培いながら、町民一人一人が十分に個性と能力を發揮することで町全体の活力を高める。 恵みの大地と海とは：大地とは農業、海とは漁業、さらにはふるさと浜中町全体と意味し、過疎化が進む中で本町の基幹産業である農業と漁業の第1次産業の振興を図ると同時に、商業、工業、観光などの各産業の振興を図り、町民がふるさとはまなかに誇りを感じ自信と生きがいを持って生活し、町民一人一人が浜中町に住んでよかったと思える魅力あるまち。 未来につながる豊かな環境とは：環境重視型社会の創出を意味し、地球的視野に立った環境保全、優れた自然と人との共生を図る自然環境保全、心の豊かさが感じられる快適環境の創出等を目指し、未来に引き継ぐ環境を重視したまち。	本町はこの地域ならではの大地に根を張る酪農業と水産業の地場産業を有しており、また国定公園への昇格が現実化しつつある、厚岸道立自然公園の一役を担う美しい自然環境は一級の観光資源である。 今市町村は他と違う個性を發揮して、その魅力を競い合う時代で住民一人一人が誇りと愛着を持ち、生きがいを実感できる地域社会を目指すために、立地条件や地域資源を活かし、本町の特性に立脚した個性豊かな活力ある将来の展望を切り開くための施策推進が必要と考える。	霧達布湿原を代表する美しい景観と豊かな自然環境に恵まれ、そこに広がる広大な大地と海に恵まれた酪農と漁業の地場産業を活かした自然環境、体験、味覚による観光振興を推進していかなければならないと考える。	自然環境豊かな中で暮らす住民にとって、地球温暖化対策は見逃してしまいがちであるが、地域でできる取り組みとして、無駄を省き資源の有効利用であるリサイクル中心の循環型社会の構築が必要と考える。	自然環境重視型の生産基盤整備。	-
別海町	町長 佐野 力三 人口減少・少子高齢化の進展に伴う経済規模の縮小や地域活力の低下が懸念されている中、釧根地域の基幹産業である第1次産業の持続的な発展と地域資源(人・食・文化・エネルギー等)の有効的な活用等の展開を推進し、将来地域に生活する人々が安心して生活できる豊かな地域社会を創る必要がある。 また、家畜ふん尿の有効な利活用による環境保全と地域産業との調和が必要と考える。	地域の目指す将来像として提案されている5つの方針を実現するため、釧根地域の各市町村が役割を明確にし、連携を図り具体的な推進が必要と考える。	釧根地域の各市町村が有しているノウハウや施設等を有効に利用し、その役割を担うことが必要と考える。	より多くの「食資源」や「観光資源」の発掘と町民ガイド等によるサービス提供形態等の確立が必要と考えるとともに釧根地域が一体となった情報発信が必要と考える。	自然災害へ向けた取り組みとしては、自然災害発令時等における情報ネットワークの確立や自主防災組織の育成、更には災害時におけるライフラインの確立が重要と考える。	-	-
羅臼町	町長 脇 紀美夫						
釧路支道庁	支庁長 -						
根室支道庁	支庁長 -						

区分	地域の現状及び課題について	地域の目標とすべき「将来像」について	今後担うべき地域の役割について	食や観光産業など今後の産業振興について	今後の生活環境などについて	上記「将来像」を実現させるために必要な取り組みについて(インフラ整備など)	その他地域の今後に関して
釧路国土交通支局 北海道運輸局	-	-	-	冊子(案)P11の表現と同じようなことと思いますが、個人意思として下記の通りありました。 海外からの観光客誘致に力を注ぐと共に、国内旅行者のリピーターを呼び込む必要性を感じます。ある統計によれば沖縄はまた行きたいと感じる魅力があるとの結果が出ています。個人的にも九州の各県、四国の各県共にそれぞれ地域特産品ここでしか、の食材・観光資源・体験ができましたし、また訪れてみたいとの気持ちを持った旅行となりました。北海道内ではどこの観光地に行っても木彫り関連グッズ、かに食べ放題等々何の競争魅力も感じられません。釧路・根室地域とて例外ではないように思われ、これほどの自然と充実した多彩な食を、どうして観光振興に結び付けられないのか。各自治体・観光関係者との早急な調整の必要性を感じます。	下記の意見がありました。少子高齢化社会が進む中において、マイカーに頼ることができなくなる高齢者の増加に備え、その高齢者に対する移動手段(交通機関)を確保することによる地域の持続的発展につなげる。	-	-